

# 平成29年度 社会福祉法人八康会 事業報告

## 総 括

平成10年8月に特別養護老人ホーム、デイサービスセンター、ケアハウス、在宅介護支援センターを開設した当法人は、その後ヘルパーステーションや居宅介護支援事業所などを開設し、久御山町内の中核的な施設として地域との関わりを深めながら事業運営を行ってきた。以下、29年度事業計画における【重点項目】についての結果である。

### (利用者サービスの質の向上)

各事業所においては利用者の命と尊厳を守り、一人ひとりが楽しいと感じる暮らしと、健康で生きがいをもって日々の生活ができるように、利用者サービスの質の向上を第一に事業展開を図った。

とりわけ、利用者の権利擁護を実現するために、施設内虐待の未然防止、予防に取り組み、虐待を発生させない体制づくり・風土づくりに努めた。身体拘束廃止委員会においては身体拘束に関わる取り組みを行っているが、高齢者虐待防止トレーナーの養成を始めとした人材育成や研修の強化を進めた。

また、すべての事業所において利用者アンケート調査を実施し、更なるサービス向上に職員一丸となって努めた。

### (人材確保)

全国的にも介護関係での人材不足が大きな課題となっており、人材確保は喫緊の課題である。11月の南部地域就職フェアなどへの出展を始めとして、人材確保に努めた一方で、職員の離職防止を含めた対応を重点として、ワークライフバランスに配慮した働きがいのある、魅力ある職場づくりに取り組んだ。

なお、特別養護老人ホームにおいては、転居のため退職した職員を除き、平成29年度に常勤正職員での離職者は無かった。一方で、登録ヘルパー人数は減少しており、確保が

喫緊の課題である。

平成29年10月の育児・介護休業法の改正事項をふまえた就業規則の変更を行うなど、育児休業を取りやすい職場環境づくりに努めた。また、今年度も、法人全事業所において、所属長による全職員への個別職員育成面談を実施した。

また、「組織活性化プログラム 職員アンケート」を活用し、職員の思いを職場づくりに生かすため、職員全員の生の声をウェブシステム・無記名方式で把握する職員アンケートを昨年度に引き続き実施し、集計分析結果や改善策・検討事項についても公表した。前回よりも、すべての項目においてポイントが上がるなど、一定の前進、評価があったと言える結果であった。

### (危機管理システムの構築)

各種リスクマネジメント対策の強化や事業を継続的に実施するための取り組みを強化することが求められているが、久御山町消防署の指導の下、消防総合訓練を実施し、普段からの自衛消防の緊急初期対応の強化や安全な避難誘導訓練を行った。

今年度においても水害対応訓練（「災害時要配慮施設における避難訓練」）を実施した。なお、水防法等の一部改正に基づく『水害・土砂災害に係る要配慮者利用施設における避難計画』については、既存の計画を見直したうえで策定し、10月初に久御山町に報告した。利用者ごとの避難先や移動手段などを整理した「対応別避難誘導方法一覧表」や「利用者緊急連絡先一覧表」をはじめとした計画を整備し、利用者の円滑かつ迅速な避難の確保に資することとした。

さらに、12月には、法人全体の安全衛生委員会における労働安全管理の位置づけも兼ねた「危険予知トレーニング（KYT）」を実施し、事故の未然防止のための危険を予知する訓練を繰り返し行った。

また、情報漏えいは組織全体に関わる重大な事柄であり、全職員に注意喚起を促すために、1月に情報マネジメント研修を実施した。プライバシー保護の観点から詳細に亘っての留意事項について徹底を図った。

その他として、平成28年度から整備している法人全体の感染症対策委員会において、各所属を網羅する「感染症対策マニュアル」の検討を重ね、29年12月に策定した。インフルエンザやノロウイルス対策を中心に、実践を含めた法人全体の総合的な職員研修の取り組みを重ねた。

### **(経営経営の安定化、ガバナンスの確立)**

経営面では、特に稼働率低下による減収とならないよう、特別養護老人ホームにおける入院者及び退所者発生後の空床運用の進め方やショートステイの稼働率向上を始めとして、通所介護や訪問介護の利用者確保などの取り組みを継続させている。

また、平成30年度介護報酬改定による報酬減に対応すべく加算算定など、さらなる収入確保について検討を重ねている。

今後も、経費の削減と併せ、より経営的感覚をもって取り組むことが求められる。

### **(地域との連携、地域貢献事業の展開)**

久御山南病院との合同夏まつりを始めとして、小学生との交流や中学生の体験学習受け入れ、災害時における協定を地元自治会と締結、利用者の外出支援など、地域の活性化、つながりの構築に向けて、多様な関係機関や個人との連携・協働を進めてきた。

今後も、社会福祉法人の責務としての「地域における公益的な取り組み」を進め、地域に信頼される施設づくりを目指すことが重要である。

## 1. 特別養護老人ホーム（介護老人福祉施設）

定員 60 名

利用者一人一人に寄り添った介護の充実を図ることに重点を置き、個別処遇計画に基づく個別ケアを中心にサービス提供を行ってきた。毎月の会議等で業務改善を行うことで、利用者と共に過ごす時間の確保ができ、個別ケアの充実を図ることができたなど一定の効果はみられた。

職員の資質向上については、施設外の研修に参加することや、各委員会（事故防止、身体拘束廃止、処遇改善、感染症対策、褥瘡予防対策）の主催や法人研修企画委員会による苑内研修を定期的に行い、職員の自己研鑽への意識、資質向上に繋げることができた。

今後も、継続しながら個々のサービス内容の見直しも進め、よりよいサービスの提供を行う。

### (1) 施設利用状況

施設の利用状況は、表 1 のとおりである。平成 29 年度の年間延べ利用者数は、20,184 人(前年比+385 人)外泊算定者を合わせた 1 日平均で 55.3 人(同+1.0 人)、ベッド稼働率は 92%(同+2%)であった。平均要介護度は 4.1 であった（同±0）。

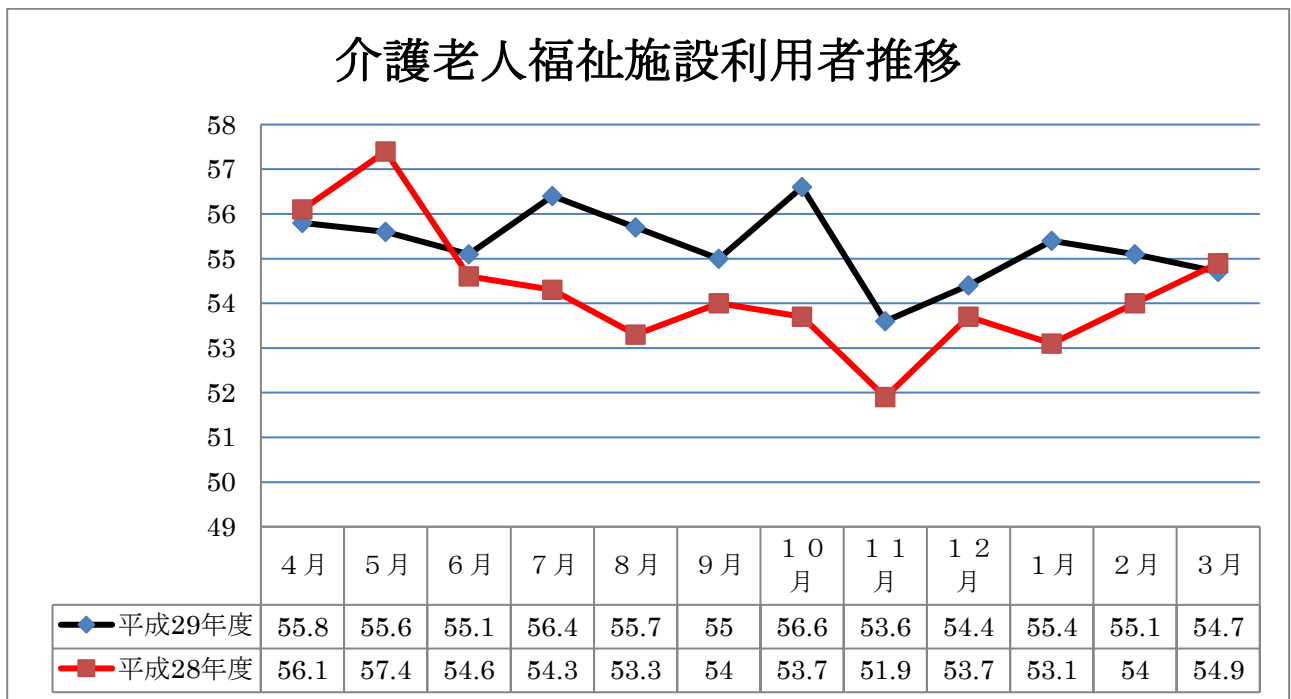
入退所状況については、年度開始当初から昨年度の空床や退所後のスムーズな次入所予定者の受け入れに向けて、関係機関との連携や事前準備等を速やかに行えたことや日常の健康管理や入退院時に医療との連携を図ることで、入院日数（同-321 日）も減少し、稼働率向上に繋げることができた。

平成 30 年度については、医療等関係機関との連携を深め、さらに稼働率の向上に努めていきたい。

表 1 介護老人福祉施設の利用状況

特養	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間合計	
平成29年度	延利用者数	1673	1725	1654	1750	1728	1650	1756	1608	1685	1717	1543	1695	20,184
	稼働日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
	1日平均(人)	55.8	55.6	55.1	56.4	55.7	55.0	56.6	53.6	54.4	55.4	55.1	54.7	55.3
	入院日数	54	25	42	61	113	125	94	160	136	93	105	119	1,127
	稼働率%	93%	93%	92%	94%	93%	92%	95%	89%	91%	92%	92%	91%	92%
前年度1日平均(人)	56.1	57.4	54.6	54.3	53.3	54.0	53.7	51.9	53.7	53.1	54.0	54.9	54.3	
入所者数	0	0	3	2	1	1	0	0	1	1	3	1	13	
退所者数	1	2	0	1	0	1	0	1	1	2	2	1	12	

図1 介護老人福祉施設の利用者数の推移



## (2) 利用者の生活の状況

平成29年度の事業計画の重点項目「一人一人に寄り添った介護の充実を図る」に基づき、個別ケアの充実に取り組んだ。

毎月のフロア会議等で個別処遇計画の見直しを行った。よりよい生活を送るために何が必要で何をすべきかということに重点を置いて、見直しを行った。

施設内の生活としては、季節を感じられる行事を中心に計画し、外出行事として、お花見と外食・工場見学で、季節感を感じられる行事を企画実行した。

苑内行事としては、8月に夏祭り、10月には運動会、12月にクリスマス会を行い、

2月には節分お楽しみ会などが実施できたことは苑外へなかなか出かけることができない利用者にとっても非常に喜ばれた様子であった。

表2 年間行事

4月	お花見（久御山中央公園 ゆうホール 楽生苑周辺）、外食、工場見学
5月	外食、工場見学、おやつ作り（わらび餅）
6月	おやつ作り（ケーキバイキング）
7月	おやつ作り（フレンチトースト）
8月	夏祭り
9月	敬老祝賀式 おやつ作り（フルーツサンド）
10月	運動会
11月	おやつ作り（ホットケーキ）
12月	クリスマス会 ゆず湯
1月	おやつ作り（ピザトースト）
2月	節分お楽しみ会、おやつ作り（どら焼き、あん巻き）
3月	おやつ作り（チョコケーキバイキング）

表3 利用者の状況（H30.3.31現在）

<日常生活>

	自立	一部介助	全介助
食事	20	21	18
起座	10	13	36
立ち上がり	10	13	36
着脱	5	24	30
寝返り	12	12	35
入浴	0	13	46
歩行	1	3	0
歩行器等	2	3	0
車椅子	5	9	36
	自立	トイレ介助	おむつ交換
排泄(昼)	4	28	27
排泄(夜)	4	9	46
	一般浴	座位浴	臥位浴
入浴種類	3	29	27

<要介護状況>

要介護1	0
要介護2	1
要介護3	15
要介護4	23
要介護5	20
要介護平均	4.1

<平均年齢>

	最高年齢	最低年齢	平均年齢
男	91	58	82.1
女	107	70	88.3
			87.7

<性別、年齢及び入所期間>

区分	～ 6ヶ月未満	6ヶ月以上 ～ 1年未満	1年以上 ～ 3年未満	3年以上 ～ 5年未満	5年以上 ～ 10年未満	10年以上 ～ 15年未満	15年以上 ～
60～64歳 男			1				
60～64歳 女							
65～69歳 男							
65～69歳 女							
70～74歳 男							
70～74歳 女			1	1			
75～79歳 男							
75～79歳 女	1		1				
80～84歳 男	1				1		
80～84歳 女		2	6	2		1	1
85～89歳 男			1				
85～89歳 女	2	3	4		3		3
90～94歳 男	1						1
90～94歳 女	2		7	1	2		
95～99歳 男							1
95～99歳 女				4	1	1	
100～104歳 男		1					
100～104歳 女					1		
105～歳 男							
105～歳 女					1		
	7	6	21	8	9	2	6

<認知症高齢者の日常生活自立度>

区分	自立	I	Ⅱa	Ⅱb	Ⅲa	Ⅲb	Ⅳ	M	その他	合計
男	0	0	0	1	2	0	2	0	0	5
女	2	2	4	13	11	12	10	0	0	54

<障害高齢者の日常生活自立度>

区分	自立	J1	J2	A1	A2	B1	B2	C1	C2	その他	合計
男	0	0	0	1	1	0	1	2	0	0	5
女	0	0	0	4	5	7	25	3	8	2	54

(3) 健康管理について

定期的な健康管理として、毎年4月に一般健康診断を行っている。何か異常があれば追加検査を行い、嘱託医より家族に説明し、今後の治療方針を相談・決定している。

平成25年度より、NST会議（栄養サポートチーム会議）を発足し、特養利用者60名の既往歴に基づいた追跡検査等を行い、健康管理をすることで再発等予防して

いくことを目的としている。

入院者数について、延べ 26 人実人数 22 人（入院病名として肺炎、気管支炎・骨折・酸素濃度低下、尿路感染等）月平均 2.1 名入院している。死亡者については、9 名（内 入院中 8 名 施設内 1 名）であった。利用者の高齢化及び要介護度の上昇があり、入院者及び入院日数が増加してきており、稼働率に影響が出ている。

感染対策としては、地域での感染症情報の収集、施設内の感染症の把握、感染症の知識を職員で共有するなど、感染症対策委員会を中心に行ってきた。

平成 29 年度の感染症としては、12 月にインフルエンザ B 型 2 名発症した。（前年比 -1 名）予防対策として予防接種は実施していたが、発症を防ぐことはできなかった。平成 28 年度から開催していた全部署が集まる感染症対策委員会を継続し、法人全体として対策に取り組んできた。感染症発症のたびに臨時感染症対策委員会を開催し、隔離方法などの対応策の検討確認や拡大防止の徹底などを確認した。

看取りについて、指針の再編集や職員にむけての研修（苑外・苑内）を行った。昨年度は、1 名の看取り介護を行ったが、今年度もさらなる体制の構築に取り組んでいきたい。

#### (4) 栄養管理について

食事提供では平均栄養基準と実績（カッコ内）は、熱量 1508kcal(1632cal) たんぱく質 51g(66g)であった。利用者個々の身体状況、嗜好に配慮した食事提供ができた。また嚥下・咀嚼機能の変化、疾病状況の変化に添い、迅速に対応できるよう給食委託業者と調整しながらおこなった。

厨房内の衛生管理については委託業者内研修や情報提供などで、感染予防に努め対応できたが、これからも一年間を通し、緊張感をもって衛生面や環境整備に今後も取り組み、予防に努めていく。

栄養ケアマ・マネジメントでは個々の栄養管理について多職種で構成される担当者会議、南病院とのNST会議で食種の経緯・体重変化・血液データ・栄養状態のレベル、栄養ケアの経過報告等を基に今後の改善目標を設定し、一人一人の利用者の状況、変化に対し、健康維持・疾病予防・栄養改善のための具体的な提供方法を検討し、実施をはかってきた。また、摂食・嚥下障害対象者にむけて多職種による協働で口から食べる支援を経口維持計画を立て実施することでさらに栄養管理を強化していくことができた。



<お誕生日食・行事食（特養・ショート・ケアハウス・デイ）>

行事名	実施日	内容
4月お誕生日食	4月22日	寿司バイキング（握り寿司）
節句の日	5月5日	ちらし寿司、鯛の潮汁、柏餅
5月お誕生日食	5月22日	松花堂弁当（手毬寿司、ほたての五色あられ揚げ等）
6月お誕生日	6月21日	洋食ランチ（真鯛のクリームソースもしくはハンバーグ）
7月お誕生日食・土用の丑	7月25日	鰻の蒲焼きご飯、真鯛のしそ巻き揚げ等
8月お誕生日会	8月19日	精進散らし、小鯛の塩焼き、天ぷら、賀茂ナス等
9月お誕生日会・敬老祝賀式	9月13日	松花堂弁当（赤飯、鯛の塩焼き、天ぷら）
10月お誕生日会	10月21日	松花堂弁当（松茸ごはん、刺身盛り合わせ等）
11月お誕生日会	11月16日	寿司バイキング（握り寿司）
12月お誕生日会	12月8日	おでんパーティ
クリスマスパーティー	12月25日	クリスマスバイキング
お正月	1月1, 2, 3日	お節料理（お雑煮、海老さより手綱等）
1月お誕生日会	1月22日	鍋パーティ（豆乳みそ鍋）
節分の日	2月3日	巻き寿司、いなり寿司等
2月お誕生日会	2月22日	松花堂弁当（蟹と生姜の炊き込みご飯、刺身等）
お雛様の日	3月3日	五目散らし寿司、炊き物（鯛の子、ふき）
3月お誕生日会	3月20日	すき焼きパーティ

その他：選択食・おやつ作り等月2回実施した

主食									副食					胃ろう	
米飯	軟飯	全粥	おにぎり	パン	パン一口大	ジャムサンド	パン粥ペースト	パン粥ゼリー	L5 (普通)	L5 (一口大)	L4b (軟菜食)	L4a (ソフト食)	L3 (ペースト食)		L2 (ゼリー食)
12	10	16	0	1	3	0	6	1	10	11	11	11	3	3	7

特別治療食 (人)

心臓食 (塩分制限食)	脂質異常食	糖尿病食	膵臓・肝臓食	貧血食	腎臓食
5	1	4	0	2	0

## 2. ショートステイ（短期入所生活介護、介護予防短期入所生活介護）

定員 10 名

利用者数は、表 4 のとおりである。年間のベッド稼働率は 98%(前年比+4%) 延べ利用者数は 3 6 0 0 人(同+1 3 1 人) の方に利用していただいた。

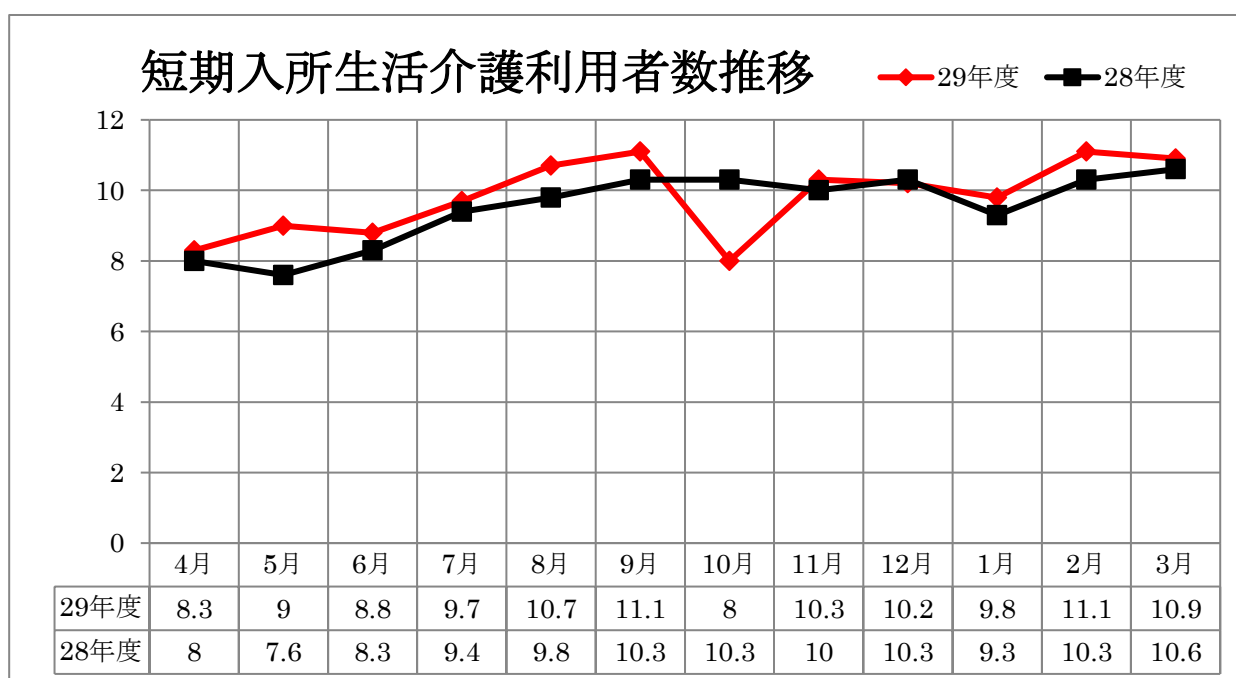
稼働率に関して、昨年度の向上に繋がった近隣市町村の居宅介護支援事業所への利用者獲得の働きかけを続けながら、医療機関等への働きかけを行い、利用者数増加に繋がったと思われる。

今後もケアマネジャーなどに対して働きかけを行い、利用者獲得にさらに努めたい。

表 4 短期入所生活介護利用者の状況

ショート	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間合計	
平成 29 年度	利用者数実績	251	288	265	303	334	333	247	310	317	304	311	337	3,600
	稼働日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
	1日平均(人)	8.3	9.0	8.8	9.7	10.7	11.1	8.0	10.3	10.2	9.8	11.1	10.9	9.8
	稼働率%	84%	93%	88%	97%	108%	111%	81%	103%	96%	98%	111%	109%	98%
前年度1日平均(人)	8.0	7.6	8.3	9.4	9.8	10.3	10.3	10.0	10.3	9.3	10.6	10.6	9.5	

図 2 短期入所生活介護利用者数の推移



### 3. デイサービスセンター（通所介護、介護予防通所介護）

今年度は、7つの重点項目を掲げた。

- 1) 「利用者、家族の立場に立ったケアの提供」；今年度利用者の要望もあり、初めて石清水八幡宮に紅葉見学に行くことができた。年間を通じ、季節に応じた行事の実施ができた。昨年同様に利用者、家族の満足度を確認するアンケートの実施もできた。
- 2) 「利用人数の増加」；新規利用や振替利用人数は昨年と特に人数に変わりはないが、入院や体調不良でのお休みが多く、その空きをうまくうめることができなかった。
- 3) 「機能訓練の充実」；在宅での状態確認を行いながら様々なメニューを準備し、訓練を行うことができた。評価についても、定期的実施状況等評価をおこなうことができた。
- 4) 「地域とのつながり」；外出時においては、民生児童委員にボランティアとして参加頂いた。又、毎月、介護サポーターが来苑され、利用者の生の声を聞いたり、職員との意見交換を行うことができた。
- 5) 「安心、安全なサービス提供」；送迎中も含め、大きな事故等もなく事業の実施を行うことができた。毎月の事故防止対策委員会にてヒヤリハット事例等の検証を行うことができた。
- 6) 「職員の育成」；定例会議や各種委員会（事故防止、サービス向上、感染症対策、身体拘束廃止）の中で、研修や勉強会の実施をすることができた。個別面談の実施もできた。
- 7) 「新総合事業について」；平成30年度に介護予防から総合事業への完全移行に向け、町への連絡、確認を行いながら、必要書類の準備を行うことができた。平成30年1月に申請を行い、事業の指定を受けることができた。

#### (1) 利用状況

利用者数は下表のとおりである。

【7～9時間デイ】年間延べ利用者総数 6,133人（前年比-339人）、1日当たりの平均利用者数は、年間平均で 19.9人（前年比-1.2人）であった。このうち、介護予防サービスの利用者は、年間で 952人（前年比-163人）で総利用者数の 15.5%であった。

【3～5時間デイ】年間延べ利用者総数 245 人（前年比-50 人）、1 日当たりの平均利用者数は、年間平均で 0.8 人（前年比-0.2 人）であった。このうち、介護予防サービスの利用者は、年間で 52 人（前年比-87 人）で総利用者数の 21.1%であった。

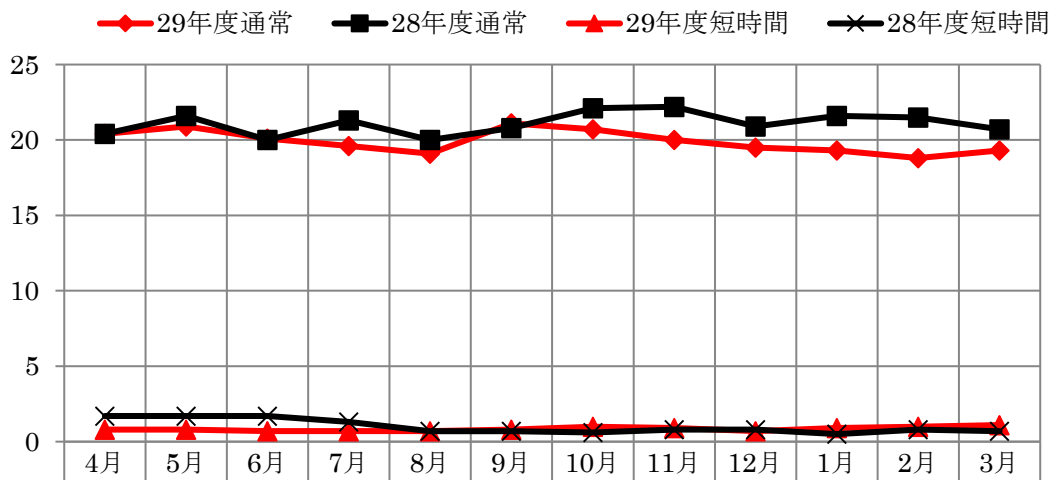
【7～9時間デイ】

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間合計
平成29年度	延利用者数	511	563	523	510	516	549	538	519	467	464	451	522	6,133人
	稼働日数	25	27	26	26	27	26	26	26	24	24	24	27	308日
	1日平均	20.4	20.9	20.1	19.6	19.1	21.1	20.7	20	19.5	19.3	18.8	19.3	19.9人
	稼働率(%)	81.6	83.6	80.8	78.4	76.4	84.4	82.8	80	78	77.2	75.2	77.6	79.7%
平成28年度		20.4	21.6	20	21.3	20	20.8	22.1	22.2	20.9	21.6	21.5	20.7	21.1人

【3～5時間デイ】

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間合計
平成29年度	延利用者数	18	19	19	17	19	19	24	21	16	21	23	29	245人
	稼働日数	25	24	26	25	26	24	25	24	23	23	23	26	294日
	1日平均	0.8	0.8	0.7	0.7	0.7	0.8	1	0.9	0.7	0.9	1	1.1	0.8人
	稼働率(%)	16	16	14	16	14	16	20	18	14	18	20	22	17.0%
平成28年度		1.7	1.7	1.7	1.3	0.7	0.7	0.6	0.8	0.8	0.5	0.8	0.7	1.0人

通所介護利用者推移



◆ 29年度通常	20.4	20.9	20.1	19.6	19.1	21.1	20.7	20	19.5	19.3	18.8	19.3
■ 28年度通常	20.4	21.6	20	21.3	20	20.8	22.1	22.2	20.9	21.6	21.5	20.7
▲ 29年度短時間	0.8	0.8	0.7	0.7	0.7	0.8	1	0.9	0.7	0.9	1	1.1
× 28年度短時間	1.7	1.7	1.7	1.3	0.7	0.7	0.6	0.8	0.8	0.5	0.8	0.7

表3【介護度】

	事業対象者	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	平均介護度
男性	0名	1名	4名	3名	7名	6名	1名	0名	2.1
女性	0名	3名	7名	5名	10名	8名	7名	1名	2.1
計	0名	4名	11名	8名	17名	14名	8名	1名	2.1

表4【利用期間】

	1年未満	1年以上3年未満	3年以上5年未満	5年以上7年未満	7年以上10年未満	10年以上
男性	7名	7名	3名	2名	2名	1名
女性	4名	15名	11名	7名	1名	3名
計	11名	22名	14名	9名	3名	4名

表5【日常生活】

食事			排泄			入浴			着脱			移動						
自立	一部介助	全介助	自立	一部介助	全介助	一般浴	車椅子浴	ストレッチャール浴	自立	一部介助	全介助	独歩		杖・歩行器		車椅子		
												自立	一部介助	自立	一部介助	自立	一部介助	全介助
56名	4名	3名	40名	11名	12名	42名	21名	0名	30名	24名	9名	9名	3名	33名	5名	4名	2名	7名

## (2) 行事報告

4月	花見 : 東一口
5月	おやつ作り: 桜餅
6月	買物 : イオン久御山
7月	おやつ作り: 抹茶白玉あんみつ
8月	夏祭り
9月	交流会 : 御牧幼稚園
10月	買物 : イオン久御山
11月	紅葉見学 : 石清水八幡宮
12月	クリスマス会
1月	新年会
2月	買物 : イオン久御山
3月	おやつ作り: どらやき

## 4. ケアハウス

平成 29 年度は、入居者の加齢に伴う虚弱化が進んだ。自立の方が、持病疾患治療中に急変し入院に至る等、循環器系、呼吸器系、消化器系などいわゆる高齢に伴う生活習慣病全般に亘り、ますます医療的管理が必要となっている。そのために、医療機関との連携を第一に、普段からご家族との良好な関係も維持しながら、日常生活が充実、維持できるよう援助を行った。

### 1. ケアハウス入退居状況

平成 29 年度は、退居者が 4 名（医療系施設 2 名、特養 1 名、他 1 名）、入居者 3 名であった。退居理由は、難病や認知症の進行等で要介護 3 となりケアハウスの生活に支障が多くなったことや、治療中の病気が悪化し急逝されたこと、また、神経内科の主治医から生活・介護環境の充実した特養への移行を勧められたことなどであった。（欠員 1 名は、2 人部屋で夫婦の申込みなく単身で利用のため。居室は満室）

(定員 15)  
(28年 29年 各年度末 在籍者調べ以下同)

表1 入居年数

	0～3年未満		3～6年未満		6～9年未満		9～12年未満		12年以上～		合計(人)	
	28年	29年	28年	29年	28年	29年	28年	29年	28年	29年	28年	29年
入居者数	8	4	1	4	7	0	2	1	3	5	15	14
年度別全体比	53%	29%	7%	29%	7%	0%	13%	13%	20%	36%	100%	100%

表2 介護度 と 入居年数

	0～3年未満		3～6年未満		6～9年未満		9～12年未満		12年以上～		合計(人)	
	28年	29年	28年	29年	28年	29年	28年	29年	28年	29年	28年	29年
自立			1	1			1		2	3	4	4
要支援 1							1			1	1	1
要支援 2	3	3		1						1	3	5
要介護 1	3			1	1						4	1
要介護 2	1	1		1				1	1		2	3
要介護 3											0	0
要介護 4	1										1	0
要介護 5											0	0
合計	8	4	1	4	1	0	2	1	3	5	15	14

表3 入居年数 と 年齢

	0～3年未		3～6年未		6～9年未		9～12年未満		12年以上		合計(人)	
	28年	29年	28年	29年	28年	29年	28年	29年	28年	29年	28年	29年
74歳～76歳											0	0
77歳～79歳					1	1			1		2	1
80歳～82歳	3	1		1					1		3	3
83歳～85歳	2	1	1	1					1	1	4	3
86歳～88歳	2			2					1	1	3	3
89歳～91歳	1	2									1	2
92歳～94歳							1			1	1	1
95歳～							1			1	1	1
合 計	8	4	1	4	1	1	2	0	3	5	15	14

(注)

- ① 入居申し込みは、80歳以上で、要介護認定を受けた方。
- ② 急激な認知症進行に伴った日常生活への支援が必要な利用者が目立つ。

2. 利用者の所得階層 月別稼働率一覧

表4

階層の区分		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	29年	28年	個人徴収額(円)
150万円以下	1				2									1.2%		7,000
		4	4	4	4	5	5	5	5	5	5	5	5	32.6%	29%	10,000
150万1円～160万円以下	2	2	2	2										3.5%	10%	13,000
160万1円～170万円以下	3	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	12.2%	7%	16,000
170万1円～180万円以下	4	4	4	4	2	2	2	2	2	2	2	2	2	17.4%	25%	19,000
180万1円～190万円以下	5				2	2	2	2	2	2	2	2	2	10.5%	7%	22,000
190万1円～200万円以下	6	1	1	1										1.7%	5%	25,000
200万1円～210万円以下	7	1	1	1										1.7%	7%	30,000
220万1円～230万円以下	9				1	1	1	1	1	1	1	1	1	5.2%		40,000
230万1円～240万円以下	10				1	1	1	1	1	1	1	1	1	5.2%		45,000
240万1円～250万円以下	11	1	1	1										1.7%	4%	50,000
290万1円～300万円以下	16	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	7.0%	7%	85,000
	計	15	15	15	15	14	14	14	14	14	14	14	14	100%	100%	
稼働率		100%	100%	100%	100%	93%	93%	93%	93%	93%	93%	93%	93%	96%		

- 1) 所得階層210万円以下は、81%。150万円以下は、34%。
- 2) 権利擁護事業利用2名、生活保護1名。
- 3) 毎月負担額は、サービス提供利用費用＋生活費＋居住費＋水光熱費で11万円までの方が大半。(10,000～85,000)＋44,810＋28,000＋水光熱費(平均5,000)



### 3 介護保険サービス利用 実人数

表5 実利用者数 (年度末)

		H28	H29
実利用者		11	10
内訳	デイ利用者	10	7
	ヘルパー利用者	8	9
	福祉用具利用者	10	7

表6 利用回数 (年度末)

週利用回数	1回	2回	3回	4回	5回	6回	合計
デイ利用実人数		3	4				7
ヘルパー利用実人数	5	3	1				9

(注)

- 1) 要支援の人でデイサービスを利用せず、ヘルパー利用のみは3人。
- 1) ヘルパー用務は、身体介助を利用している人は、週1回入浴介助で、他は生活援助を利用。

### 4. 行事報告

- 1) 入居者が自分のやりたいことが継続でき、生きがいを持ち、楽しく日常生活を過ごして頂けるよう、畑での野菜の栽培、屋上庭園での草花の手入れ等、季節に応じて、コミュニケーションをとりながら活動していけるよう各種の行事を実施した。

表7 年間行事一覧表

年月	主な行事内容
4月	東一口への花見、畑の耕作(ボランティア)、イブニングへの買物
5月	買物・昼食、さつまいも苗植え、久御山町第22回ふれあい福祉まつり参加、イブニングへの買物
6月	ミニ外出(音羽茶屋・大起水産・くら寿司+百均)9人、イブニングへの買物
7月	4階ケアハウス避難訓練10人(1階調理室出火夜間想定)
8月	南病院・楽生苑合同夏祭り、トップセンターへの買物、さつまいも畑草取り
9月	敬老会、イブニングへの買物、ミニ外出(くら寿司・大起水産・音羽茶屋・ビックホーイ)10人、全館避難訓練14人、2階洗濯室夜間想定訓練
10月	イブニング買物、長浜・彦根レク利用者家族17人(マイクロバス)
11月	紅葉見物ミニ外出、さつまいも掘り
12月	インフルエンザ予防接種(希望者11名)、クリスマス・マジックショー(コーヒー・ケーキ+プレゼント 洗剤+お茶)クリスマス飾り
1月	初詣(城南宮神社+外食会)8人、イブニングへの買物、
2月	お茶会(抹茶)、歌と踊りと尺八の集い、イブニングへの買物、ケアハウスニュース発行、4階ケアハウス避難訓練10人(1階調理室出火夜間想定)、ご利用者満足度アンケート調査
3月	茶話会・懇談会(30年度の行事について検討)、イブニングへの買物全館避難訓練14人(1階調理室出火想定・全館放送)、水害対応訓練(デイ)

## 2) 地域交流について

平成 29 年度は、ふれあい福祉祭りの参加、久御山南病院と楽生苑との合同夏祭り、社会福祉協議会の認知症サポーター養成講座などへの参加や、認知症高齢者ひとり歩き模擬訓練 in 栄 3、4 丁目「絆見守りネットワーク全体研修会」などへの参加を通じ、積極的に地域交流を図った。

## 5. 健康管理の実施

- (ア) 年 1 回の特定健診を受診。結果を各自で主治医へ報告。必要に応じ肺炎球菌の予防接種。
- (イ) インフルエンザの予防接種を行い、また感染症予防のため手洗いの励行や消毒に努めた。
- (ウ) 食事摂取量の変化は健康のバロメーターと考え、異常に摂取量が少ない日が継続しないか観察した。

## 6. 避難訓練

水害対応訓練含め、年 3 回の全館避難訓練を実施した。内1回は、夜間想定を実施。その他、ケアハウスだけで 2 回避難訓練を実施した。

## 5 ヘルパーステーション（訪問介護、介護予防訪問介護）

今年度については、訪問介護員の人数は一定数を確保できたが、離職者もあり、新規の依頼に100%対応することができなかった。新しい居宅介護支援事業所のケアマネジャーとの関わりや現利用者の増回利用等に対応できた為、利用者に安心していただくことはできたと思われる。介護老人保健施設への入所、医療機関への入院や在宅復帰が困難になった方等も多くおられた。また、在宅での看取り支援については、支援に繋がる方は少なかったが、依頼は増加している。

今後の課題としては、訪問介護員の増員及び離職防止への取り組みを強化し、新規の依頼や日曜日・祝日、夕方から夜間時間帯の訪問が、より安定して提供できるような態勢の構築が必要と考える。

ヘルパーの研修については、外部講師による研修等を実施し、充実した内容となり、事業所内研修への出席率は昨年度より増加した。知識及び実技向上に繋がるようさらに内容を充実させ、スキルアップを図っていきたい。

### 1、研修内容

日 時	事業所内研修	外部研修
4月 11日 13日	①認知症ケア研修	
5月 9日 11日	①家庭内における転倒事故(危険箇所と予防策)(外部講師)	集団指導
6月 13日 15日	①熱中症・脱水・食中毒について	コミュニケーションについて
7月 11日 13日	①接遇について	パーキンソン病について
8月 8日 10日	①法令遵守②記録について	
9月 12日 14日	①感染症について②パーキンソン病について	
10月 12日	①おむつ交換(外部講師)	マナーセミナー
11月 9日	①調理実習	
12月 14日	①個人情報について②作業療法士からみた住環境整備	
2月 8日	①接遇について②危険予知訓練について	
3月 17日	①緊急時対応②ヒヤリハットまとめ	

### 2、ヘルパー派遣利用者数

(単位:名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
利用者数(介護)	63	66	64	58	50	62	56	56	61	60	60	50	706
利用者数(予防)	43	41	45	39	39	43	50	46	39	42	43	38	508
合 計	106	107	109	97	89	105	106	102	100	102	103	88	1,214

### 3、ヘルパー訪問回数

(単位:回)

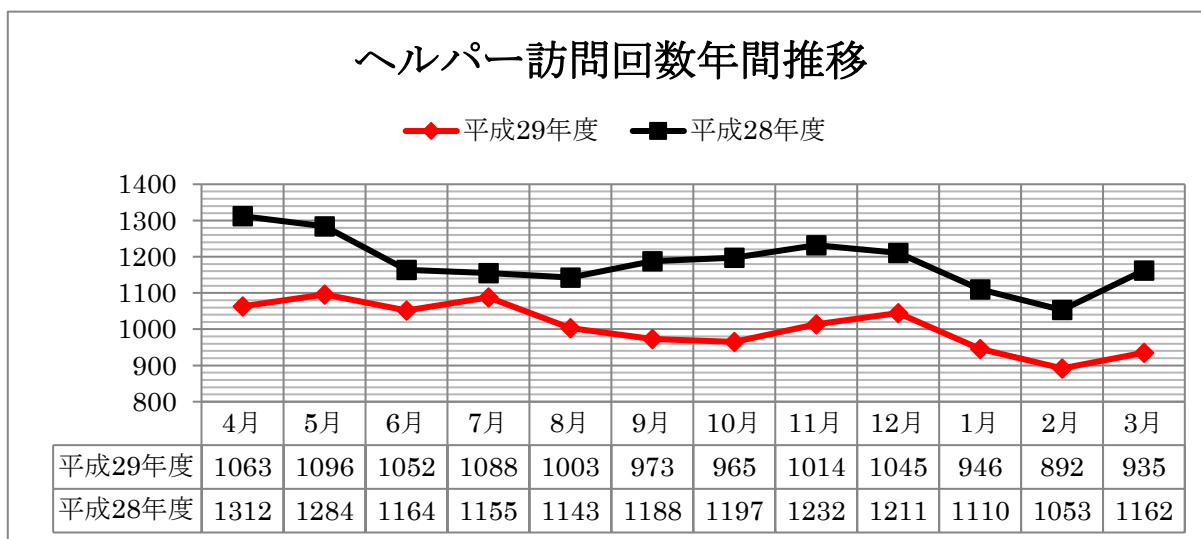
訪問回数	内 容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
	身体介護	370	383	347	370	329	302	275	346	358	311	307	319	4,017
	身体生活	66	74	74	91	63	64	64	55	65	54	52	60	782
	生活援助	627	639	631	627	611	607	626	613	622	581	533	556	7,273
合 計 (回)	1,063	1,096	1,052	1,088	1,003	973	965	1,014	1,045	946	892	935	12,072	

### 4、ヘルパー訪問回数前年度比較 (図1)

(単位:回)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
平成29年度	1,063	1,096	1,052	1,088	1,003	973	965	1,014	1,045	946	892	935	12,072
平成28年度	1,312	1,284	1,164	1,155	1,143	1,188	1,197	1,232	1,211	1,110	1,053	1,162	14,211
増 減	-249	-188	-112	-67	-140	-215	-232	-218	-166	-164	-161	-227	-2,139

図1 ヘルパー累計訪問回数

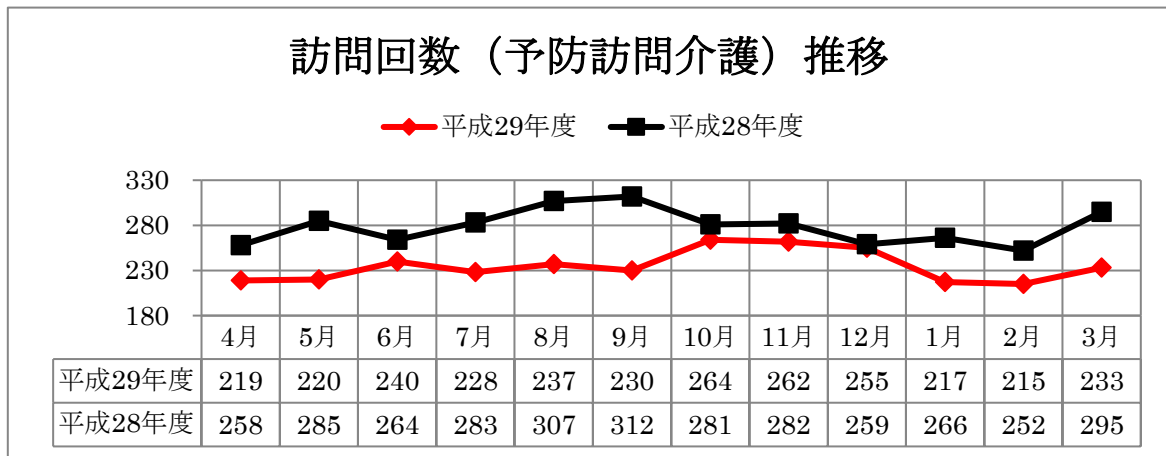


### 5、予防訪問介護ヘルパー派遣前年度比較 (図2)

(単位:回)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
平成 29年度	219	220	240	228	237	230	264	262	255	217	215	233	2,820
平成 28年度	258	285	264	283	307	312	281	282	259	266	252	295	3,344
増 減	-39	-65	-24	-55	-70	-82	-17	-20	-4	-49	-37	-62	-524

図2 訪問回数（予防訪問介護）の推移



## 6. 居宅介護支援事業所

今年度は給付管理件数 150 件／月を目標にしていたが、在宅復帰困難な入院や近隣市町村の介護老人保健施設やサービス付高齢者住宅、有料老人ホーム等施設への入所者数増加に伴い、月平均 109 件と目標を上回ることは出来なかった。給付管理票提出件数も、1310 件(前年比-23 件) と減少している。しかし、予防給付は、前年度の月平均 36 件から 43 件と増加している。

介護支援業務においては、昨年度から引き続き、ターミナル支援を含む医療機関退院後の支援や介護保険サービスだけでは生活支援が行き届かないため、インフォーマル支援の併用等多種多様なニーズへの対応や各関係機関およびサービス提供事業者との調整を要する機会が増加。また、一人暮らしや高齢者世帯の支援等で、相談や訪問回数、時間等も増加している。定例会議や研修伝達会議、事例検討会等を定期的に開催し、事例の振り返り・確認を行うことができ、利用者の情報や支援内容等共有することができた。担当者のみならず、事業所全体で支援を行う取り組みができた。

利用者満足度アンケート調査を 3 月に実施。事業所の総合的な評価は、満足が全体の 94%、どちらともいえない：1.5%、不満：1.5%、無回答：3%であった。今後もアンケート調査内容の見直し等含め顧客ニーズをより深く把握するための取り組みは、継続的に行う必要がある。

平成 29 年度の課題として残った、事例検討等内容の充実を図り、また、他職種との連携や質の高いケアマネジメントが実践できるような取り組みを行っていく必要がある。

1. ケアプラン作成実績 (図1)

(単位:件)

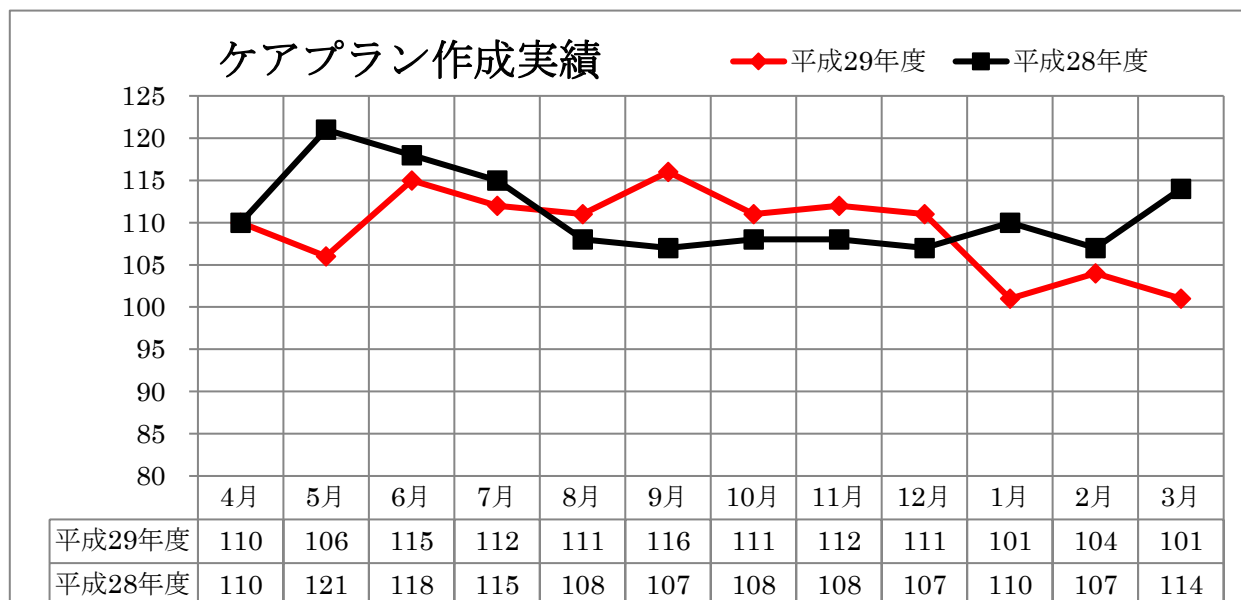
月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成29年度	110	106	115	112	111	116	111	112	111	101	104	101	1,310
平成28年度	110	121	118	115	108	107	108	108	107	110	107	114	1,333

## 2. 要介護度別ケアプラン作成実績

(単位: 件)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要介護1	平成29年度	23	24	26	21	24	22	21	21	25	20	20	18	265
	平成28年度	24	30	30	28	24	22	23	23	23	23	22	24	296
要介護2	平成29年度	41	38	42	44	44	47	43	44	39	39	36	39	496
	平成28年度	44	45	42	44	41	41	40	41	41	39	39	44	501
要介護3	平成29年度	35	32	35	31	29	28	31	29	29	25	24	21	349
	平成28年度	28	30	31	31	30	31	31	30	30	34	32	34	372
要介護4	平成29年度	9	8	8	8	10	11	10	13	13	13	15	17	135
	平成28年度	9	11	9	7	7	8	8	7	7	9	8	7	97
要介護5	平成29年度	6	4	4	4	4	8	6	5	5	4	9	6	65
	平成28年度	5	5	6	6	6	6	6	6	6	5	5	5	67
居宅介護支援 介護給付費別 (年間総数)		平成29年度	介護度 1~2			761		介護度 3~5			549		合計	1,310
		平成28年度	介護度 1~2			797		介護度 3~5			536		合計	1,333

図1 ケアプラン作成実績

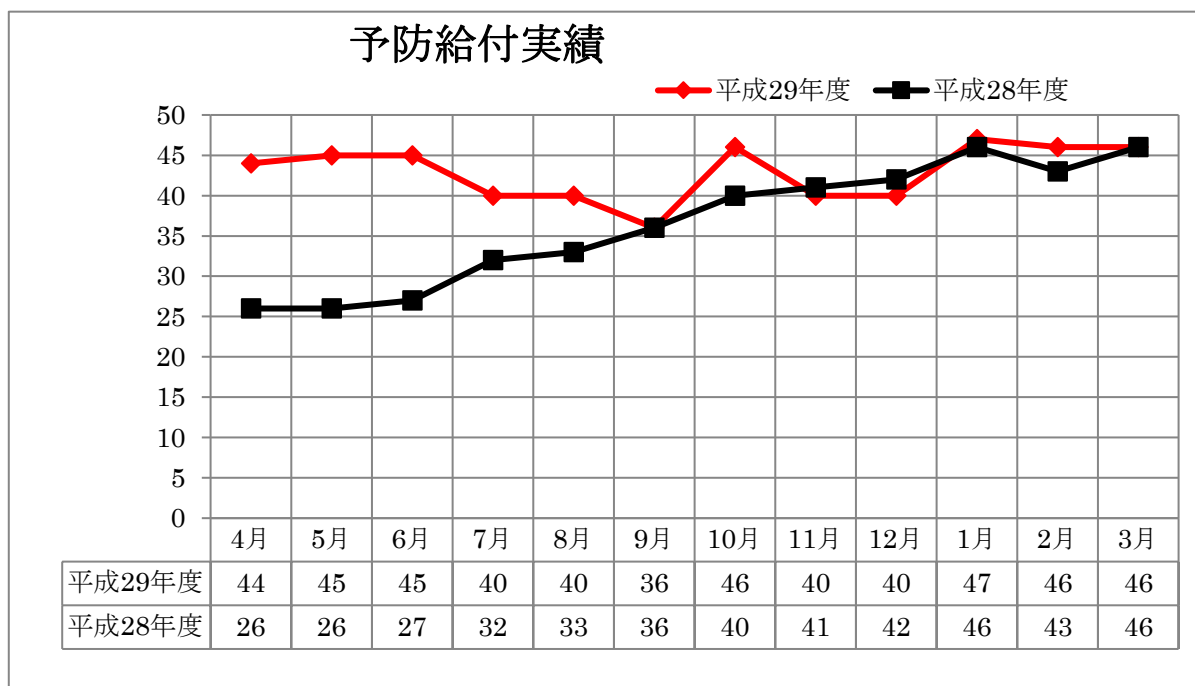


## 3. 予防給付(委託)実績 (図2)

(単位: 件)

		月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要支援	平成29年度		44	45	45	40	40	36	46	40	40	47	46	46	515
	平成28年度		26	26	27	32	33	36	40	41	42	46	43	46	438

図2 予防給付実績





## 7. 平成 29 年度 研修一覧

特別養護老人ホーム・ケアハウス・デイサービスセンター

施主体	研修名
京都府老人福祉協議会	京都府認知症介護実践者等養成研修
京都府看護協会	喀痰吸引等指導者養成研修 指導看護師フォローアップ研修
京都府	京都府介護支援専門員研修 きょうと認知症のひとにやさしいまちづくりフォーラム
一般社団法人 京都府老人福祉施設協議会	第 1 回総会・研修会 第 2 回総会・研修会 高齢者虐待防止トレーナー養成研修
京都府福祉人材センター	傾聴力トレーニング 福祉職場研修担当リーダー研修 社会福祉専門セミナーⅡ
介護労働安定センター 京都支部	介護職のための薬の知識 現場で実践レクリエーション
京都府社会福祉法人 経営者協議会	第 32 回総会及びセミナー
京都府社会福祉法人 経営者協議会	29 年度社会福祉法人経営者セミナー
京都府・京都労働局・職業安定所	平成 29 年度企業内人権啓発推進員研修会・ 京都府企業内人権問題啓発セミナー及び学 卒求人説明会 労働関係法令セミナー
(株)葵総合保険	転倒・骨折事故防止対策セミナー
宇治久世医師会	他職種でかかわる摂食嚥下ケア 施設での看取りケア
京都府健康福祉部	平成 29 年度民間社会福祉施設長研修会
メデカルサポート	チームで取り組む褥瘡対策感染対策
近畿老人福祉施設協議会	近畿老人福祉施設職員研修会
京都府	介護保険サービス事業者等に係る集団指導

久御山町社協	絆見守りネットワーク全体研修会
シルバーサービス振興会	介護プロフェッショナル段位制度アセッサー研修
宇治市	認知症ケアスーパー人材養成研修
やましろ認知症地域ケア連絡協議会	やましろ認知症地域ケア連絡協議会 総会
京都府	福祉避難所開設運営研修会 福祉サポートリーダー養成研修 危険物管理者講習
京都府介護支援専門員会	山城ブロック研修会 失語症状と失語症への支援
京都府社会福祉法人 経営者協議会	会計実務者決算講座
福祉人材・研修センター	京都介護・福祉職場面接会・相談会
一般財団法人 京都府介護福祉士会	介護福祉士実習指導者講習会
一般社団法人 京都府老人福祉施設協議会	第2回山城ブロック施設長会・研修会
久御山町消防本部	防火管理研修
久御山町	介護支援専門員研修会 介護予防・生活支援体制整備事業協議体
やまきたリハビリテーション支援センター	やまきた地域連携のつどい
京都府看護協会	指導看護師フォローアップ研修
日本通所ケア研究事務局	施設看護師に求められる役割と看護ケア視点セミナー
京都府老人福祉施設協議会	デイサービス研修会

## ヘルパーステーション

実施主体	研修名
京都府（山城北保健所）	パーキンソン病 在宅でできるリハビリ 従事者同士の交流会
久御山町	介護予防・生活支援体制整備事業協議体
宇治久世医師会医療介護連携推進事務局	第1回訪問介護事業所・宇治久世医師会医 療介護連携推進プロジェクト連絡会議
宇治久世医師会	多職種でかかわる摂食嚥下ケア
京都府社会福祉人材研修センター	平成 29 年難病患者ホームヘルパー養成研 修
京都府ホームヘルパー連絡協議会	支援する人の支援を考える
京都府ホームヘルパー連絡協議会	「頼まれたこと、どこまでやっていいの」 ～グレーゾーンについて一緒に考えてみま せんか～
パナソニックエイジフリーショップ京都南	作業療法士からみた住環境整備（玄関編）

## 居宅介護支援事業所

実施主体	研修名
京都府介護支援専門員会	平成 29 年度介護支援専門員及び主任介護 支援専門員研修
久御山町	介護支援専門員研修会
久御山町地域包括支援センター	地域ケア会議
京都府	介護保険サービス事業者に係る集団指導
京都府	京都府介護支援専門員実務研修実習に係る 説明会 実習受入協力事業所講習会